

リウマチ通信

Vol. 16

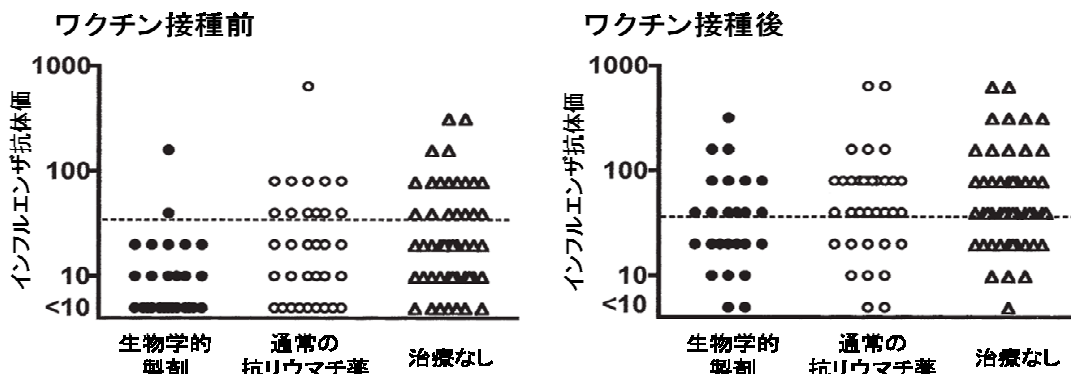
平成 27 年 11 月号



インフルエンザワクチンについて

インフルエンザの季節が近づいてきました。今年もワクチン接種の準備は出来ていますか？免疫を抑制する薬剤（プレドニン、リウマトレックス、プロGRAF、各種生物学的製剤など）を使用中の患者は積極的にワクチン接種をおすすめいたします。下図のように免疫を抑制する薬剤を使用していても、していなくても同様に免疫がつきませんが、つきにくい人がいるのも事実です。2回接種を勧める人もいますが、CDC（米国疾病予防管理センター）では1回接種を推奨しています。なお、オレンシアという生物学的製剤の点滴を受けている患者さんの場合はオレンシアを投与した当日にワクチン同時接種は避けた方が無難です（次回点滴の7～14日前くらいに接種することをおすすめします。）

海外では鼻に吹きかけるタイプのインフルエンザワクチンがあり、日本でも一部の施設で使用されているようですが、これは生ワクチンであり免疫抑制下にある患者ではインフルエンザを発症する可能性があるため、使用してはいけません。ワクチンも大事ですが、マスクが最も有効な予防手段ですので、流行期に病院に行くとき、人ごみの中を歩く時などは必ずマスクをするようにいたしましょう。

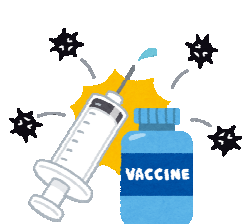


〈図の説明〉

生物学的製剤（レミケード、エンブレル）投与中のリウマチ患者 27 人、通常の抗リウマチ薬を内服中のリウマチ患者 36 人、健常者 52 人を対象にインフルエンザワクチンの接種前と接種後でインフルエンザの抗体価がどのくらい上昇したか示している。各ドットが 1 人のひとのインフルエンザ抗体価を表しています。点線より上にある人たちはインフルエンザに対する抗体を十分に持っていると考えられます。詳しくは医学雑誌 Modern Rheumatology 17 巻 531～533 ページ（2007 年）をご覧ください。

肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌ワクチンは 5 年に 1 度定期接種を行うことで、肺炎球菌という細菌による肺炎からある程度、体を守ってくれます。自治体から 65、70、75、80、85、90、95、100 歳の年にワクチン接種の案内が来るはずですが、肺炎を起こす菌もたくさんあることから、このワクチンが予防できる肺炎は一部ではありますが、肺炎球菌は最も多い肺炎を起こす菌であり、時に体中に菌がまわり命に関わる敗血症という状態になることから、案内がありましたら接種をお勧めします。また、それ以外の年齢の方でも、免疫抑制を起こす薬剤（リウマトレックスやプレドニン、各種生物学的製剤など）を使用されている患者さん、また予定されている患者さんでもワクチン接種が推奨されています。（その場合、自治体からの補助は出ませんが）。特に肺、心臓、腎臓の機能が極端に低下している患者さんはワクチン接種が強く勧められます。不活化ワクチンですので、免疫抑制をきたす薬剤を使用してもワクチン接種可能ですし、基本的にはどんな薬を飲んでいても接種の妨げにはなりません。



（文責 医師 大村 浩一郎）